

神の光の届かない闇 の深淵はない

「どのような荒廃した過去も、傷ついた歴史も、あわれみが触れることのできないものはありません」。教皇レオ十四世は水曜日の謁見で、キリストが陰府に下ったことの意味を明らかにし、それが私たちの人生とどのように関係しているかを示します。

2025/09/26

2025年9月24日教皇レオ十四世一般
謁見演説（カトリック中央協議会
ウェブページ）

pdf | から自動的に生成されるドキュメント <https://opusdei.org/ja-jp/article/kyoukou-ippanekken20250924/>
(2026/01/22)